

(1) 小田原急行鐵道江ノ島支線、片瀬江ノ島停車場の辨天橋竣工當時の景

小田原急行鐵道江ノ島支線工事概要

東京と片瀬間を一時間二十分の急行電車

小田原急行鐵道會社土木課長

牧野錠次郎

【東京近郊に於ける】第一の民衆的遊覽地にして、一年の遊覽客60萬人を超える江の島と東京山の手の中心新宿とを連絡する小田原急行鐵道江の島支線は、新宿起點より20哩3分神奈川縣高座郡大野村に於て小田原急行本線より分岐し、小田原急行電鐵會社が有する約100萬坪の經營地の中央を横斷し、西大和驛にて神中鐵道と交叉、藤澤町に至り東海道本線に乗越え省線藤澤驛と連絡して、江の島棧橋の浪打際に達する延長17哩、軌間3呎6吋の高速電氣鐵道なり。

本線より分岐し藤澤町に至る14哩2分は昭和3年2月、藤澤江の島間2哩8分は昭和4年1月起工し、建設費5百萬圓を投じて、昭和4年4月1日全線を開通するに至れり。

【線路の最急勾配及最小半徑】最急勾配40分の1、最小半徑10鎖

【橋梁工事】橋桁はLE257、橋臺及橋脚はLE337の荷重により設計し、總計17ヶ所此延長659呎、内主なるものは徑間150呎、斜角36度、複線式構桁の東海道本線乗越橋梁とす、桁架工事施工の際は恰も御大典なりした

め鐵道省の嚴重なる監督を受け、深甚の注意を拂ひ無事竣工し得たり。

【溝橋工事】開渠4ヶ所、暗渠11ヶ所にして鋼桁はLE257鐵筋混凝土桁及橋臺は總てLE337の荷重により設計せり。

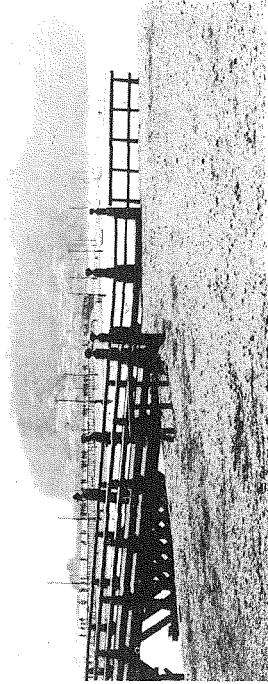
【隧道工事】藤澤町地内に延長561呎の隧道1ヶ所を設けたり、地質堅硬なりしも複線隧道を避け中心間隔30呎を隔て、單線隧道を並列せしめたり。

【軌道工事】軌條は八幡製鐵場製75封度軌條を使用し、枕木16挺を敷設す、轉轍器及轍叉は總て8番を使用せり。線路砂利は複線1哩當り約600坪(内切込砂利8割精選砂利2割)を撒布せり。

【停車場工事】停車場3ヶ所、停留所10ヶ所信號場1ヶ所、計14ヶ所にして、大野分岐點に信號場を、會社の大經營地内に停留場3ヶ所を設けたり。藤澤停車場は省線停車場に連絡し、目下工事中の跨線橋竣工の上は省線との乗換一層便利なるべく、終點の片瀬江の島停車場は外觀構造等特に意匠を凝し江の島棧橋際片瀬川の右岸景勝の地に設け、片瀬川

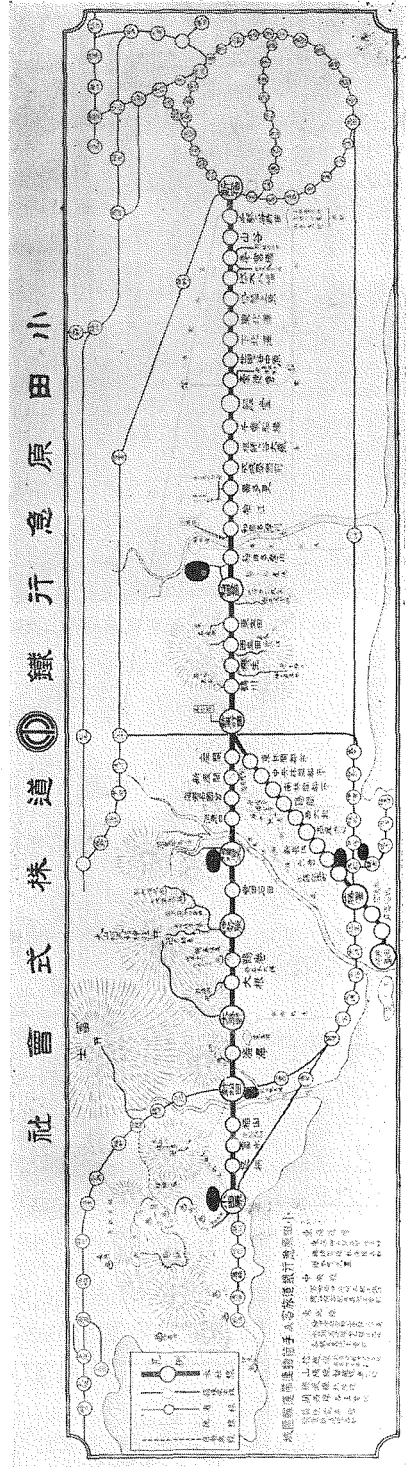


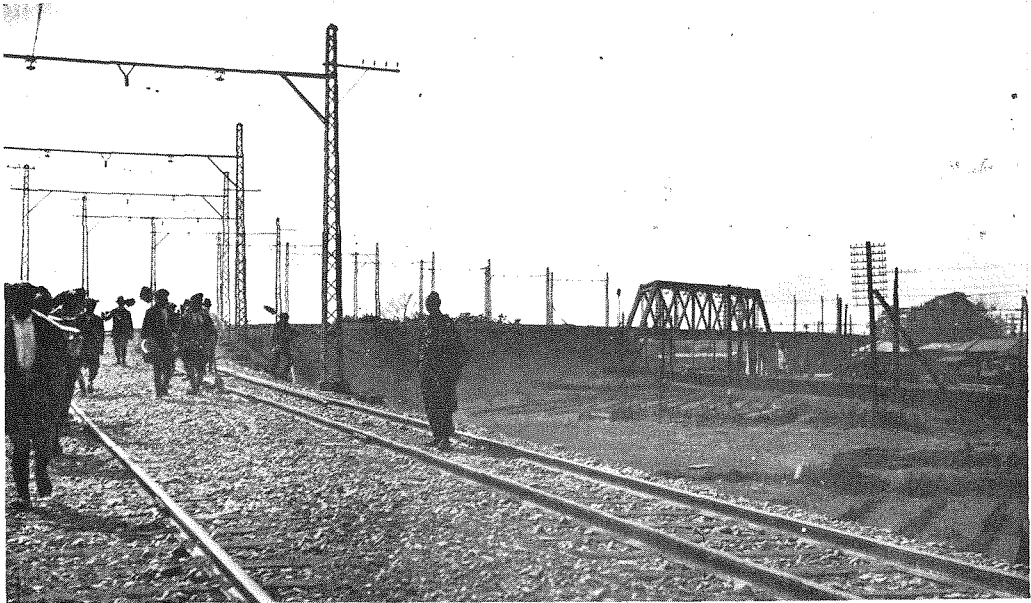
(2) 小田原急行鐵道、片瀬江ノ島停車場
 本屋 48、6坪 鐵筋混凝土建
 上屋 104坪
 待合室 6坪



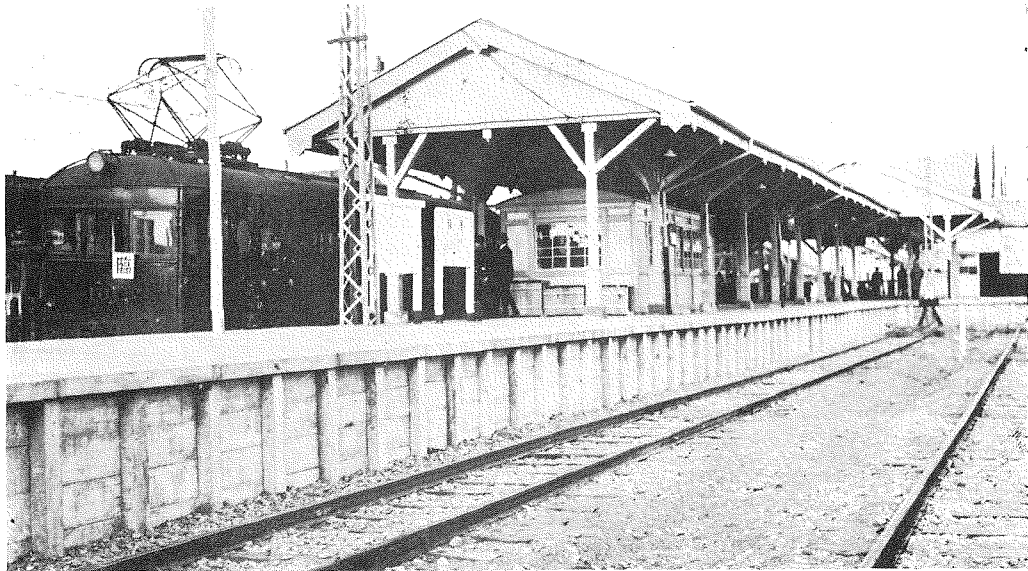
(3) 片瀬江ノ島駅前渡場より江ノ島を望む(大林組施工)

(4) 小田原急行鐵道株式會社 鐵道急行小田原





(5)鐵道省線東海道線交叉跨線橋 徑間150呎、斜角36度、橋臺鐵筋混凝土、桁、復線構桁



(6) 藤澤停車場、本屋14.6坪、上屋160坪、待合室6坪、

に辨天橋を架設して棧橋と連絡せしめたり。

【保安装置】大野信號場、藤澤停車場、片瀬江の島停車場には各信號扱所を設置し電氣機聯動機を装置す。

大野信號場南林間都市間及藤澤本町片瀬江の島間に自動閉塞信號機を設け、南林間都市藤澤本町間には双信閉塞器回線を設置す。

【車輛】電動客車は四輪ボギー車自重36噸定員116名にして馬力電動機4個を取付け車輛の總長52呎、外に定員126名の附隨車を製作せり。

【變電所工事】新長後停車場に變電所を設け500「キロワット」回轉變流器3臺を設置し、1500「ヴォルト」にて電車線に饋電す。電力は